

■平成31(2019)年、糸島半島に約1万9千人が集う巨大な「まち」が誕生します。

九州大学伊都キャンパス移転スケジュール

第Ⅰステージ (平成17～19年度)

総勢 **約5,200人**
(学生:4,200人、教職員1,000人)

移転人数 **約5,200人**

工学系、理学図書館Ⅰ

箱崎より移転完了
(～平成18年度)
第Ⅰステージ完了

第Ⅱステージ

(平成20～23年度)

総勢 **約10,800人**
(学生:9,500人、教職員1,300人)

移転人数 **約5,600人**

全学教育、比較社会文化、言語文化、
数理学研究院、理学部数学科、
高等教育開発推進センター他、
理学図書館Ⅱ

六本松より移転完了
(～平成21年10月)
第Ⅱステージ完了

第Ⅲステージ

(平成24～31年度)

総勢 **約18,700人**
(学生:15,500人、教職員3,200人)

移転人数 **約7,900人**

理学系、
情報基盤研究開発センター、
中央図書館、
文系、農学系、
その他

用地再取得

**平成24年度
完了見込み**

平成17年10月に工学系が伊都キャンパスに移転し開校してから、これまでに六本松キャンパスで行われていた全学教育(全学部の1・2年生を対象とした基礎的な教育部門)の機能などが移転しています。今後の移転スケジュールは、理学系、文系などの順で予定されています。そして、平成31年度の農学系の移転をもって完了し、約1万9千人が集う巨大な「まち」が糸島半島に誕生することになります。



糸島市
学研都市推進課
古藤 和久主査

伊都キャンパスへの統合移転が進むにつれ、九州大学の学生などとの交流も数多く見られるようになりまし。現在100を超える連携事業が行われており、地域行事への学生の参加や留学生を招いての異文化交流など多くの分野にわたります。こうした市民のみなさんの力により、九州大学はより身近な存在になりつつあります。今後も市民のみなさんと九州大学が連携を深めるほど、お互いにより一層意識し合い、息の長い交流が続くことを期待しています。

一方で、九州大学に糸島市が身近であることを感じてもらうことも重要です。九州大学の研究者が行う研究を助成したり、学生が市内で活動する際のサポートをすることで、糸島は九州大学にとって活動がしやすい場所だ」という意識を持つただければと思っています。

伊都キャンパスへの移転が完了するのは8年後ですが、それ以降も九州大学はそこに存在し続けます。市としても両者が良い関係になるためのサポートをしていきたいと考えています。

糸島市九州大学連携研究助成金研究一覧表

	研究課題名	研究者名	糸島市関係課
平成22年度	糸島産の原料を使ったラーメンの開発に関する研究	下田 満哉 教授(農学研究院)	学研都市推進課 農業振興課
	GISによる雷山川および瑞梅寺川流域の動的洪水ハザードマップと最速避難ルートマップの作成	池見 洋明 助教(工学研究院)	危機管理課
	農産物規格外品等の再生利用と循環型社会システムの先導的地域モデル	中司 敬 教授(農学研究院)	農業振興課
	瑞梅寺川以東における避難所の適地選定のための意思決定支援	三谷 泰浩 准教授(工学研究院)	危機管理課 経営企画課
	糸島地域における情報化農業推進のためのIT基盤システムの開発	岡安 崇史 准教授(農学研究院)	農業振興課
平成23年度	糸島市における森林資源の保全と循環的な利活用に向けた政策課題の抽出	佐藤 宣子 教授(農学研究院)	農林土木課
	糸島市における森林バイオマスのエネルギー活用とCO ₂ 排出削減量のクレジット化に関する研究	佐藤 宣子 教授(農学研究院)	農林土木課
	糸島市サイン計画に対する地域の目印情報に関する研究	佐伯 謙吾 助教(芸術工学研究院)	商工観光課
	白糸の滝への小水力発電の導入に関する調査・研究	島谷 幸宏 教授(工学研究院)	学研都市推進課 商工観光課
	糸島半島における高密度重力探査を用いた基盤・断層構造の推定	西島 潤 助教(工学研究院)	危機管理課
	糸島地域のサスティナブル・ハビタット構築に関する実証的研究	坂井 猛 教授(新キャンパス計画推進室)	学研都市推進課
	糸島天然素材(農林・海産物)のライブラリー化と有用機能探査	清水 邦義 助教(農学研究院)	農業振興課
	養豚糞尿の液肥利用のための湿式高温好気発酵過程の解明と社会技術の開発	矢部 光保 教授(農学研究院)	農業振興課
	イチゴの高収益安定生産を目指した条間配風ダクトによる適温管理とCO ₂ 施用	北野 雅治 教授(農学研究院)	農業振興課
	糸島産イノシシ肉の有用性評価による農村集落活性化	丸居 篤 助教(農学研究院)	農業振興課
	糸島市における絵本カーニバルの研究と実践	目黒 実 特任教授(統合新領域学府)	生涯学習課

糸島市九州大学連携事業に関する問い合わせ 学研都市推進課 ☎(332)2064



伊都祭2011 副実行委員長

神代 睦子さん

(イタリアンレストラン・バー
「エボカ」経営／ 前原中央)

まちの変化が面白い！
みなさんも一緒に
夢を抱きましょう

学生と地域が、
一緒に成長できる場を
つくりたい



地域活性化団体 iTOP副代表

山田 雅彦さん

(九州大学工学部4年生／
京都府出身・高田在住・22歳)

学生・市民の夢と思い

地域と大学が交流・連携して共に発展するための関係づくりを目的に、毎年九州大学伊都キャンパスで開催されている伊都祭。その第1回開催(2007年)から露店部会長として関わってきました。九大祭でも露店を出す学生を店に招き、調理指導や小道具の提供などで全面的にバックアップしています。

学生さんとは孫ほど年が離れていますが、お互いの知恵を提供し合い、一人の人間としての交流ができています。良い関係でつながっていることが何よりうれしいです。学生にとって糸島は第二の故郷。時々思い出してまた遊びに来てほしいし、「糸島で過ごして良かった」という思いを、次に活躍する場で伝えてほしいとも思います。

そのために10～20年後を見据え、まち全体が良い方向へ変わらなければいけません。来てくれるお客さんを受け入れる体制づくりが必要なのです。市民のみなさん、まちづくりに関わりながら一緒に夢を抱きませんか？糸島はこれからどんどん面白くなりますよ！

沖部 奈緒子さん

(九州大学大学院工学研究院 地球資源システム工学部門 准教授)



糸島で暮らし始めて1年。休日は、家族で野北のビーチに出かけたり、可也山や柑子岳へ登ったりと、アウトドアを楽しんでいます。おかげで仕事のON・OFFがつけやすいですね。自然の中で遊ぶことができ、子育てにも良い環境だと思います。よく買い物に行くのは「JF糸島 志摩の四季」。魚や野菜の種類が豊富で、何より新鮮で安いのが魅力ですね。

糸島は、都会化しようとしていないのに活気溢れるまち。これまで暮らしてきた海外や日本各地と比較しても、とても住みやすいと感じています。今後も、糸島の良さを残した形での発展を望んでいます。